

団体名 [みんなの家 House for All]

1 団体の紹介：“みんなの家”は、グローバル社会で、夢をもって、自分らしく生きていく力を養うための全人的形成を目指す、小学生のための「放課後インターナショナル コミュニティ」です。

2 活動状況と成果

○活動名：夏の子どもキャンプ（自然学習体験）

○実施期間：2021年7月31日～2021年8月1日

○実施場所：広島県三次市上田町388 旧上田小学校

○活動内容：

マイクロバスをレンタルし、小学生8名、スタッフ9名で、ほしはら山のがっこうで一泊二日の自然体験学習を行いました。

普段、広島市内に住み、豊かな自然に触れる機会の少ない子どもたちが、深い森に包まれ緩やかに流れる時間の中で思い切り遊ぶことができました。野山の中で様々な生き物との出会いを喜びと驚きをもって体験し、また、満天の夜空の星を仰ぎながら、神秘的な自然の偉大さを子どもなりに感じたことと思います。まさにこの夏のキャンプは自然界に向かって、子どもたちの心の目と耳を開き、自己肯定感につながるよい機会になったようです。いくつか例を挙げますと、それまで内向的だと思っていた小学4年生が、キャンプファイヤーで自ら進んで笛の演奏をみんなの前で披露してくれました。また、みんなの家での活動には消極的であった小学3年生がキャンプ終了後、ほしはら山のがっこうのスタッフであるふくろう先生に自発的に連絡を取りました。それは、この度のキャンプ体験が自分の獣医師になりたいという将来の夢を実現するために役立ったこと、そして、今後も動物について学びたいということ伝えていているように思います。

また、みんなの家のスタッフにとっても、一泊二日の寝食を共にする中で、子どもたちの言動に現れるその特性を認識、理解し、子どもの個々のよさをあらためて気づくうえで、今回のキャンプは貴重な体験となりました。

3 今後の課題・展望：

課題としては、コロナ感染防止対策として密を避けるため、子どもたちの共同作業が思うように行えず、子ども同士の絆を十分に深める機会を逸したことです。コロナ終息後は自然体験学習を通して、子どもたちが周りの人たちとのつながりを深めながらともに生活し、その中で自分の役割や居場所を見つけ、互いに助け合う体験をコーディネートしていきたいと思います。このキャンプでの体験を基に、これからも子どもたちは自然界の生き物の命の大切さに気付き、自然に寄り添った生き方を模索してほしいと願っています。特に環境問題や気候変動が顕著になる昨今、持続可能なよりよい未来のため、子どもたちが自分にできることを想像力（創造力）を駆使しながら試行錯誤してほしいと思います。

今後の具体的な活動としては、直接自然に親しむ機会を持つことができるよう、みんなの家での野菜・草花栽培や郊外の農家での農業作業体験等を計画しています。そうした中で、効率と便利さを追求する社会の中で忘れがちな手間暇かけ想像力を駆使し試行錯誤しながら物を作っていくことの大切さに気付き、小さな成功体験を積み重ねてゆくことで子どもたちの達成感や自己肯定感の育成につながることを目指していきます。また、自然とつながって生きるライフスタイル（生活様式）について認識、理解を深めることができるよう、ワークショップ等を持ちたいと考えています。

夏のキャンプ（自然体験学習）

—自然の中での共同生活で、協働する楽しさも体験—

一日目



ほしはら
山のがっこう

廃校になった
旧上田小学校に宿泊



一泊2日のキャンプ
頑張るぞ〜！

楽しむぞ〜



↑ 森遊び(生きもの探し…)の前に、
ふくろう先生に教えてもらい
『ペットボトル』を使って虫かごづくりを

↓ 『ほしはらの森』の中へ 生きものを探しに。…その後は ロープで楽しく！…



虫はどこ〜？



ふくろう先生に色々な事を



教えてもらいました



「きゃ〜 楽しい！」

↓ 夕食の準備
アルミの空き缶を使ってご飯を炊く…初めての経験



((o(わあ〜い)o))) みんなの元気な声が森の中に響きました！



空き缶を使って飯ごうを作り



空き缶にお米を入れて洗い

↓ キャンプファイヤーの後は、寝っ転がって星を観察



♪燃〜えろよ 燃えろ〜よ…月



わあ〜…たくさんの星！



↑ 朝食の準備も協力して



空き缶でお米を炊きました！

二日目 最後は
周りの自然や畑を
みんなで歩いて見学



ふくろう先生
や、お世話にな
った方へ
お礼の手紙を
書きました。

